

フォルボ・フロアリング
ご導入事例紹介 vol.5

株式会社ブルボン本社（新潟県柏崎市）

新潟県柏崎駅前に2015年に竣工した(株)ブルボン本社は、執務エリアのほぼすべてにフォルボの床材をご採用頂きました。

今回はこちらのブルボン本社ビル設計に携わられた建築家の遠藤秀平氏に床材選びのポイントやクライアントからの評価について伺いました。

フォルボのリノリウム床材を採用された経緯について お聞かせください

フォルボのリノリウム「マーモリウム」を最初に使ったのは、2000年頃のプロジェクトですが、天然素材でありながら耐久性に優れていること、色・柄のバリエーションが豊富な点が気に入りそれ以降のプロジェクトでもたびたび採用しています。

ブルボン本社では全フロアの床材を統一したものにしたいので、実際にサンプルを取り寄せ、クライアントと検討した後、フロテックスを中心に採用しました。

本社ビルの設計段階で既に施工中であった「公益財団法人ブルボン吉田記念財団ドナルド・キーン・センター柏崎」という同社の関連施設でフロテックス、マーモリウムを採用し、事前に実際に使って確認することができたので、比較的スムーズにクライアントから採用の承諾を頂きました。

色や柄のバリエーションが豊富で、床に表情を持たせることができ、そして耐久性にも優れていることや、清掃やメンテナンスも容易なことについても高い評価を頂いています。



(Photo : MATSUMURA Yoshiharu)



遠藤 秀平氏

フローカーのコンセプトについてお聞かせください

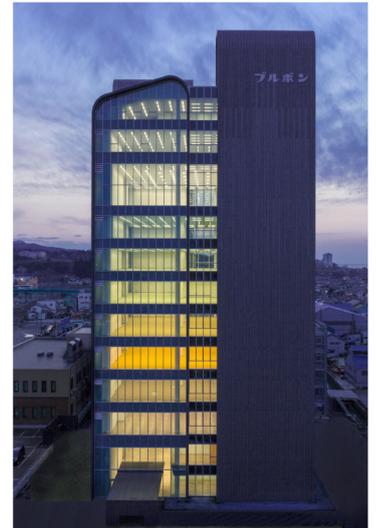
オフィスという空間における機能性はもちろんのこと、社員の気分転換といった精神的な面も考慮してデザインを検討しました。

当初、虹のように床をデザイン貼りをする「レインボーカラー」という案も出ました。しかしながら最終的には、地上から、木の幹、枝、葉、そして空と宇宙へと昇る「アースカラー」というコンセプトに決定しました。

その色彩コンセプトに合う色や柄を持つ床材がフロテックスでした。

竣工後は社長をはじめ、社員の皆様からも大変ご好評を頂いています。繊細な色で表情が豊かでありながら、高密度に電着されているが故、繊維が毛羽立たず、歩行感覚も柔らかく、快適なところと抜群の耐久性があるという点が一番気に入っています。

働く方が一日のうち大半の時間を過ごされるオフィスという空間において「身体にもやさしい」ことは内装材を決める上で重要であると考えています。



(Photo : MATSUMURA Yoshiharu)

内装仕上材＝身体に一番近い部分にあるものは、出来るだけ自然由来の素材を使って行きたいと考えています。

一般的に天然素材の床材は耐久性に劣るといったイメージがありますが、フォルボのリノリウム「マーモリウム」ではそのような心配はありません。

オフィスフロアはすべてフロテックスを採用、食堂、更衣室、トイレや給湯室など水まわりのエリアにはマーモリウムを採用しましたが、いずれの素材も竣工から一年半が経過しましたが、高い評価を頂いています。

フォルボ・フロアリングへのご要望があれば お聞かせください。

時間があれば色・柄などをオリジナル・デザインできるフロテックス・デジタルプリントも使ってみたいかったです。今後のプロジェクトで機会があればぜひ、検討したいと思います。

一般的にはリノリウムと石油系の樹脂素材との違いや特長を正確に認識されている方は少ないと思います。一般の戸建住宅へのリノリウムの普及率は多くはないと思いますが、フォルボのリノリウム「マーモリウム」は身体にやさしい素材である点、清掃・メンテナンスが容易であるということや豊富な色・柄が選べる点など、この素材がもつ優位性をもっとPRしていくことで今後様々なシーンで採用されてくるのではないかと思います。



(Photo : MATSUMURA Yoshiharu)